

SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度選定

兵庫県多可町

2023年9月

SDGs未来都市計画名

多可町SDGs未来都市計画 人と自然が共生する新たな森林サービスで幸福度高まる TAKA [多可] 創生事業

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

多可町SDGs未来都市計画 人と自然が共生する新たな森林サービスで幸福度高まる TAKA [多可] 創生事業

(2) 2030年のあるべき姿

住民参加型のオープンイノベーションプラットフォーム『クリアグリーン TAKA』への参加数が増加し、一人ひとりの経験が町の活性化に貢献する体験をすることで生き甲斐を見出し、生き生きと暮らす住民が増えている。またこのプラットフォームから生み出されるイノベーションの成果は、生活関連の課題解決から、町の資源を基盤とする新事業の創出まで多岐にわたり、それらによって、移住・定住やテレワークなどで人口減少に歯止めがかかっている。『クリアグリーン TAKA』を通して、誰もが生き甲斐を感じ、個々が成長する過程で SDGs にも貢献でき、新しい価値創造が自律的に展開される町となっている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 健全な成長も 経済成長も	 3 すべての人に 健康と福祉を	 7 エネルギーも クリーンに
 17 パートナーシップで 目標を達成しよう	 11 住み続けられる まちづくりを	 15 陸の豊かさも 守ろう
 17 パートナーシップで 目標を達成しよう		

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	多可町ブランド数【8.2】	2022年1月 0 件	2022年 3 件	2030年 10 件	30%
2	町内事業所従業者率【8.5】	2018年1月 11.7 %	2022年 - %	2026年 15.0 %	-
3	『クリアグリーン TAKA』による事業創出の数【17.17】	2022年1月 0 件	2022年 0 件	2030年 10 件	0%
4	運動習慣の割合（男性）【3.8】	2021年 26.1 %	2022年 - %	2026年 30.0 %	-
5	運動習慣の割合（女性）【3.8】	2021年 20.7 %	2022年 - %	2026年 25.0 %	-
6	社会増減数【11】	2018年 ▲ 247 人	2022年 ▲ 149 人	2024年 ▲ 50 人	50%
7	多可町に愛着を感じている町民の割合【11.3】	2019年 78.0 %	2022年 - %	2030年 83.0 %	-
8	多可町に住み続けたいと考えている町民の割合【17.17】	2019年 70.3 %	2022年 - %	2030年 75.0 %	-
9	木質チップの生産量【7.2】	2020年 3,725 トン/年	2022年 4,405 トン/年	2026年 4,000 トン/年	-
10	森林整備面積【15.1,15.2】	2020年 269 ha/年	2022年 214 ha/年	2026年 280 ha/年	-

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・本計画のメイン多可町SDGs登録者と外部の企業や大学、金融機関等と交流連携を図る場（組織）『クリアグリーンTAKA』の発足が必要不可欠。また、同組織に所属する多可町SDGs登録者の増加が急務。なお、実績値が取れていない次の項番についての状況と今後のについては下記の通り。

項番 2) 町内事業所従業者率・・・R5年度実績から地域の商工会にお願いし年度末における町内従業者数を報告頂くことで対応予定

項番 3・4) 運動習慣の割合・・・クアオルト健康ウォーキングの普及啓発によりウォーキング参加者が増えている。特に、町内企業の福利厚生等で活用いただくことが増えた。なお、指標の設定当初の数字は健康増進計画策定時に行ったアンケート結果に基づいたものである。毎年アンケートは行っていないため、多可町が実施する健幸アプリの登録者数、もしくは、町ぐるみ健診実施の際のアンケート結果などで対応できないか検討しており、R5年度実績には、より実態に近い数字を反映していく予定。

項番 7) 多可町に愛着を感じている町民の割合・・・設定当初の数値は総合計画策定の際に行ったアンケート結果に基づいたものである。しかし、毎年アンケートを行っていないため進捗管理は極めて困難であり別の指標でしか対応できないと考える。よって、今後は、現指標の意味合いを考慮しつつ同計画の事業を行うことで得られる成果を別の指標で進捗管理していきたい。

項番 8) 多可町に住み続けたいと考えている町民の割合・・・設定当初の数値は総合計画策定の際に行ったアンケート結果に基づいたものである。しかし、毎年アンケートを行っていないため進捗管理は極めて困難であり別の指標でしか対応できないと考える。よって、今後は現指標の意味合いを考慮しつつ同計画の事業を行うことで得られる成果を別の指標で進捗管理していきたい。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
1	ESG活動推進企業による森林保全等の促進	企業の活動・投資による森林保全	2021年1月 2 件	2022年 2 件			2024年 4 件	0%
2	『クリアグリーンTAKA』の浸透による環境負荷への低減	多可町SDGs登録者（個人）	2022年2月 2 人	2022年 2 人			2024年 50 人	0%
3	『クリアグリーンTAKA』の浸透による環境負荷への低減	多可町SDGs登録者（事業者）	2021年 0 件	2022年 9 件			2024年 30 件	30%
4	多可町ブランドの創出と発信強化	農業産出額	2019年 2,150,000 千円	2022年 そもそも多可町で把握出来る数字ではないため2022年度数値が取れない。よって、今後は、該当事業から多可町が毎年把握できる数値を再考していく。			2024年 2,200,000 千円	-
5	ソーシャルビジネスの創出支援	共創のまちづくり事業数	2021年 0 件	2022年 2 件			2024年 6 件	33%
6	多可町ブランドの創出と発信強化	観光交流人口	2018年 1,101 千人	2022年 894.8 千人			2024年 1,150 千人	-421%
7	多可町ブランドの創出と発信強化	林業総収入	2015年 307,500 千円	2022年 そもそも多可町で把握出来る数字ではないため2022年度数値が取れない。よって、今後は、該当事業から多可町が毎年把握できる数値を再考していく。			2024年 410,000 千円	-
8	暮らしの安全・安心を守る	福祉ボランティア登録者数	2018年 54 グループ	2022年 48 グループ			2026年 70 グループ	-38%
9	交流と健康長寿のまちづくり	健康ポイント事業参加者数	2022年2月 2,286 人	2022年 3,800 人			2025年 4,000 人	88%
10	子育てするならダントツ多可町	将来の夢や目標を持っている児童生徒数（小6）	2019年 86 %	2022年 78.3 %			2024年 90 %	-193%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
11	子育てするならダントツ多可町	将来の夢や目標を持っている児童生徒数（中3）	2019年 70 %	2022年 62.3 %			2024年 80 %	-77%
12	子育てするならダントツ多可町	全国学力・学習状況調査における全国比100以上（小学校・国語）	2018年 94 %	2022年 95 %			2024年 100 %	17%
13	子育てするならダントツ多可町	全国学力・学習状況調査における全国比100以上（小学校・算数）	2018年 93 %	2022年 98 %			2024年 100 %	71%
14	子育てするならダントツ多可町	全国学力・学習状況調査における全国比100以上（中学校・国語）	2018年 90 %	2022年 93 %			2024年 100 %	30%
15	子育てするならダントツ多可町	全国学力・学習状況調査における全国比100以上（中学校・数学）	2018年 98 %	2022年 93 %			2024年 100 %	-250%
16	子育てするならダントツ多可町	あったか家族多世代住宅助成事業利用者（累計）	2020年 43 件	2022年 73 件			2024年 120 件	39%
17	クアオルト健康ウォーキングを核とした森林サービス産業の創出	ウォーキング事業参加人数	2020年 2,414 人/年	2022年 2,646 人/年			2024年 4,500 人/年	11%
18	クアオルト健康ウォーキングを核とした森林サービス産業の創出	宿泊施設の利用者数	2021年 11,749 人/年	2022年 18,831 人/年			2024年 13,000 人/年	566%
19	デジタル技術の活用	企業版ふるさと納税額	2021年 0 千円	2022年 0 千円			2024年 10,000 千円	0%
20	人材育成	移住世帯数	2020年 36 世帯	2022年 35 世帯			2024年 50 世帯	-7%
21	人材育成	移住人数	2020年 72 人	2022年 61 人			2024年 100 人	-39%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

クアオルト健康ウォーキングを核とした森林サービス産業から経済、環境、社会の3側面へ好循環を生み出すため、まずは、クアオルト健康ウォーキングを展開する一般社団法人『多可の森健康協会』の組織体制強化に努めた。具体的には、クアオルト健康ウォーキングにおけるガイド役の養成やウォーキング参加者を補助するサポーター制度の導入などにより受け入れ体制を構築している。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・同計画の全体像を関係者と再度共有し、町全体で達成していく機運を醸成していく必要がある。
個別事業内容について、引き続き事業関係課と実情を共有し3側面の循環を構築していく。
・Jクレジットについては、集落林関係者の同意が難しく、かつ、二酸化炭素吸収量の測定等に多額の費用がかかることから難航している。
・ボランティアグループについては高齢化で活動をやめちゃうグループもある一方で、定年後まだ元気な高齢者や子育て世代が無理のない範囲で社会貢献したいという機運が生まれている。これらの受け皿として『地域運営組織（仮称）』を立ち上げ、個々が自由に流動的に活動できる仕組みを検討・構築していく。

項番1) 企業の活動・投資による森林保全

⇒ESG活動推進企業へのアプローチが殆ど出来なかった。

今後、事業担当課（産業振興課）ととりまとめ課（企画秘書課）で、本計画の内容を熟読・共有して役割分担を行い、町全体で企業へ働きかけを行っていく。

項番2) 多可町SDGs登録者（個人）

⇒まずは、同制度の存在を知って頂く必要がある。令和4年度はその普及啓発が殆ど出来なかった。

よって、R5年9月の町広報紙は、SDGs特集として登録事業者の取り組みを全12ページにわたり掲載した。

登録事業者の取り組みが町全体へ展開することを狙い、登録事業所の取り組みの発信に力を入れていく。

項番4) 農業産出額

⇒そもそも5年に1回の農林業センサスの指標を設定しているため、多可町で把握出来る数字ではないため2022年度数値が取れない。

今後は、該当事業から多可町が毎年把握できる数値を再考していく。

項番6) 観光交流人口

⇒観光交流人口の目標値1,150千人は、コロナ前を基準として設定した。

コロナの影響で観光関係は大打撃を受けたが徐々に戻りつつある状況である。

2025年大阪・関西万博に向けて町内6箇所に兵庫フィールドパビリオンを認定頂いている。

その一つにクアオルト事業があるため、フィールドパビリオンとしての磨きをかけながら観光人口の増加を目指していく。

項番7) 林業総収入

⇒そもそも5年に1回の農林業センサスの指標を設定しているため多可町で把握出来る数字ではないため2022年度数値が取れない。

今後は、該当事業から多可町が毎年把握できる数値を再考していく。

項番8) 福祉ボランティア登録者数

⇒ボランティアを行う方が高齢化しており、活動そのものを中止してしまうグループが出ている結果、登録数が減っている。

しかし、一方で、福祉ボランティア団体として登録していない新たなグループが出来つつある。

今後は、新たなグループも登録ボランティアとして町全体で活動頂けるようボランティアグループのネットワーク化を図りながら地域共生社会を支える団体として協力頂けるよう働きかけていく。

項番10) 将来の夢や目標を持っている児童生徒数（小6）

⇒マスク生活などコロナの影響が強くあったため、未来への漠然とした不安が大きく影響したようだ。

本町では、まずは「授業が分かることにより自信を付けてもらい前向きな生活を送ってもらうよう」町単独で、抽象的理論的学習が始まる小学3年に学習支援員を配置しており、3年後の小学6年生時の状況までに

上向きに傾向に成果を出している。このため、全国平均と比較すれば多可町の数字は高くなっている。

なお、R5年度実施した最新の数値では大きく改善している。今後も子供達の地域行事への参加など、児童の尊厳を守り育てるまちづくりを継続していく。

項番11) 将来の夢や目標を持っている児童生徒数（中3）

⇒マスク生活などコロナの影響が強くあったため、未来への漠然とした不安が大きく影響したようだ。

しかし、全国平均と比較知れば多可町の数字は高く、R5年度実施した最新の数値では大きく改善している。子供達の地域行事への参加など、生徒の尊厳を守り育てるまちづくりを継続していく。

項番15) 全国学力・学習状況調査における全国比100以上（中学校・数学）

⇒コロナの影響は生徒の学ぶ意欲にも大きく影響しているようだ。

本町では、まずは「授業が分かることにより自信を付けてもらい前向きな生活を送ってもらうよう」「分かる授業」を提供できるよう、教師の授業研究などを通じて教える技術の向上を図っている。

引き続きOB教師からの助言等をもらい「分かる授業」を行うことで生徒の自信を育成していく。

項番19) 企業版ふるさと納税額

⇒企業版ふるさと納税の受け入れが出来よう令和4年度に地域再生計画を策定し受け入れ体制を構築した。

その結果、令和5年度早々に企業から寄付の申し出があった。今後は、SDGs事業を更に展開できるよう、本町の取り組みに賛同いただけるようなPRを行い更に寄付を獲得していく。

項番20) 移住世帯

⇒コロナによる地方への移住が一段落した状況の中で、多可町が選ばれるためには常に最新の情報を分かりやすくPRしなければならない。

本町としては、子育て世代に移住してもらいたいため、子育て世代が求める情報（仕事、住む場所、各種子育て施策）をタイムリーに発信すべく「たか暮らし手帖」を作成しQRコードを掲載することで、随時更新した情報を届けていく流れをつくった。今後は、子育て世代を含め、移住相談者へ「たか暮らし手帖」やQRコードの存在を伝え、多可町の魅力を確実に伝えていく。

項番21) 移住人数

⇒コロナによる地方への移住が一段落した状況の中で、多可町が選ばれるためには常に最新の情報を分かりやすくPRしなければならない。

本町としては、子育て世代に移住してもらいたいため、子育て世代が求める情報（仕事、住む場所、各種子育て施策）をタイムリーに発信すべく「たか暮らし手帖」を作成しQRコードを掲載することで、随時更新した情報を届けていく流れをつくった。

今後は、子育て世代を含め、移住相談者へ「たか暮らし手帖」やQRコードの存在を伝え、多可町の魅力を確実に伝えていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・SDGs登録者の着実な評価について、子育て、ブランド、地方創生への貢献についての説明を期待する。子育て支援の対策取り組みについても、説明と指標化しての評価を期待する。
- ・P.5：企業ふるさと納税の受け入れができるよう体制を整えるとともに、PR活動も積極的に展開し、納税額を増やしていただくの意気込みについては一定の評価はするが、得られた収益の用途についてSDGs関連取組推進事業に反映できるよう用途を明確にしていくよう更に検討することを期待する。